

第2回 横浜市港北区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年3月26日(木) 午前9時15分から12時00分まで
開 催 場 所	港北区役所3階3号会議室
出 席 者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 西田 ちゆき (法政大学現代福祉学部兼任講師)</p> <p>委員 大森 幹雄 (港北区保健活動推進委員会会長)</p> <p>加藤 修 (港北区地区社会福祉協議会代表者)</p> <p>坂田 裕子 (坂田裕子税理士事務所 税理士)</p> <p>竹崎 理浩 (港北区連合町内会代表者)</p> <p>中原 圭介 (港北事業者連絡会“ガンバ港北”会長(ケアマネ部会))</p> <p>羽場 和代 (港北区主任児童委員連絡会代表者)</p> <p>畑野 恵子 (港北区民生委員児童委員協議会代表者)</p> <p>【事務局】</p> <p>港北区福祉保健課長 郷原 寛史</p> <p>港北区福祉保健課事業企画担当係長 吉田 哲朗</p> <p>港北区福祉保健課事業企画担当 木舟 里恵</p> <p>港北区福祉保健課事業企画担当 丸山 希和子</p> <p>港北区高齢・障害支援課高齢者支援担当係長 渡邊 哲治</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	非公開
議 題	<p>1 応募団体の面接審査</p> <p>(1) 事前確認事項</p> <p>(2) 応募団体の面接審査</p> <p>(3) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明</p> <p>2 指定候補者の選定、講評</p>
決 定 事 項	<p>指定候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市港北区長に報告することとする。</p> <p>1 横浜市日吉本町地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人緑峰会</p> <p>次点候補者：エフィラグループ株式会社</p>
議 事	<p>1 応募団体の面接審査</p> <p>(※本採点結果公表まで団体名は伏せて実施)</p>

(1) 事前確認事項

事務局から、公募の結果2団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の3点について確認した。

○委員会の公開・非公開

非公開とすることを確認。(第1回委員会で審議済み)

○面接審査の進め方及び質問項目の確認

(事務局)

- ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。
- ・1施設に対して複数の応募があったが、最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。

(委員)

- ・ヒアリング時の質問項目を確認した。

○応募団体の資格要件等について

(事務局)

- ・資格要件について、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。
- ・欠格事由に該当しないことを報告。

(2) 応募団体の面接審査

ア 社会福祉法人緑峰会

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) 職員の定着率が高く、ベテランも多いため、事業の質も高いと感じている。他の地域ケアプラザは包括・地域交流の離職率が高い印象だが、高い定着率を維持する工夫は何か。

(団体) 当団体では、入職時研修を充実させ、専門的な内容も含めて全職員に学ぶ機会を設けている。年1回以上の研修や面談で課題や希望を把握し、継続的にフォローしている。今後も同じ方針を大切にしていく。

(委員) 日吉地区はマンションが増加しており、回覧板が回りにくいなど情報が届きにくい状況がある。そうした住民の把握や、地域ケアプラザや住民同士が繋がるための方法を検討しているか。

(団体) 若年層の多いマンションは地域ケアプラザとの関係が希薄な傾向が

あるため、まずは地域ケアプラザに興味を持ってもらえるようなきっかけづくりに力を入れている。LINEの友だち登録など、参加しやすい仕組みを整えている。また、オートロック物件へのアウトリーチは課題だが、管理人がいるマンションでは日頃からコミュニケーションを取り、相談に結びつく関係づくりを進めていく。

多様な人が集まる場所から包括支援センターを知っていただき、相談に結びつけていきたいと考えている。

(委員) 子育て世帯は日中外出していることが多い状況の中で、今後、土日を含め、子育て支援拠点や主任児童委員及び民生委員・児童委員との連携をどのように進めていくのか。

(団体) 市や区の子育て関連事業との連携はもちろん、親と子のつどいの広場や主任児童委員及び民生委員・児童委員とも協力しながら進めていく。土日開催も含め、母親だけでなく父親も参加しやすいよう、対象者のニーズに応じた事業展開を検討していく。

(委員) 働いている世代は「住んでいるだけ」という人も多い。自身の介護経験からも、いざという時に困らないための事前の学びや情報提供が大切だと強く感じた。住民が少しでも安心して暮らせるよう、幅広い分野の情報を届ける取り組みに期待している。

(委員) 「地域活動紹介」の冊子について、1施設のみでこれだけの事業を実施しているのか。

(団体) すべて1施設で実施している事業である。市や区の活動紹介冊子もあるが、来所者は身近な地域の情報を求める方が多いため、写真や文字の大きさなどに配慮し、分かりやすく作成している。

(委員) 地域包括支援体制の構築が課題となる中、行政や主任児童委員及び民生委員・児童委員、関係団体との連携状況はどうか。

(団体) 行政とは、些細な事でも日常的に相談・情報共有を行い、円滑な連携体制を構築している。

また、各種会議や主任児童委員及び民生委員・児童委員の委員会にも継続的に参加し、意見交換や情報発信等を通じて関係づくりを行っている。

(委員) 事業計画書において、連携を「行っている」だけでなく、「どのように行っているか」を具体的に示しており、多様な主体と連携しながら活動を展開している点に安心感を持った。

(委員) 高齢者や男性等、これまで地域ケアプラザを利用していない方につ

	<p>いて、どのような課題を感じ、どのように取り組んでいるか。</p> <p>(団体) 男性を対象とした事業を企業連携も含めて検討し、来所のきっかけづくりを進めている。</p> <p>また、無関心層は男女を問わず存在し、いわゆるひきこもりや地域活動に全く参加しない方については、民生委員も対応に苦慮している状況がある。地域ネットワークと連携しながら、どのようにすればその人に少しでもアプローチできるかを検討していきたい。</p> <p>イ エフィラグループ株式会社</p> <p>(ア) プレゼンテーション</p> <p>団体から、団体の概要、事業計画等について説明</p> <p>(イ) 主な質疑応答</p> <p>(委員) 取組に対する思いは強く感じたが、具体的な方法についての言及が少なかった。実際に実行可能なのか。また、「連携」「強化」とあるが、実際には調整が必要であり、容易ではないと感じている。どのように進めていく考えか。</p> <p>(団体) 2011年の創業以来、27事業を立ち上げてきた実績がある。事業立ち上げにあたっては、まず専門家の知見を踏まえて基礎を固めたうえで、地域の方と対面でコミュニケーションを重ねながら、その地域に根差した取組を進めてきた。連携や調整が容易でないことは十分認識しており、これまでの実績と経験を活かしながら進めていきたい。</p> <p>(委員) 個人的な感想として、地域ケアプラザは企業的な判断で進めてはいけない部分があると感じる。日吉地区の地域の特性や既存の地域組織との関係性を踏まえ、地域とともに進めていく視点が重要だと思う。</p> <p>(委員) 例えば高齢分野において、地域との連携を進める上で注視すべき関係者や団体について、どのように想定し、どのようなアプローチを検討しているか。</p> <p>(団体) 町内会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会など、まずは地域の要となる団体との関係を構築し、そこから地区に根差した他の団体と連携していきたい。</p> <p>(委員) 事業計画書に『「地域共生社会」を実現するプラットフォームとしての役割』と記載されているが、ここでいう「プラットフォーム」とは、どのような意味で使用しているか。</p> <p>(団体) 地域ケアプラザは高齢者に特化した施設ではなく、地域に住むすべての人が住みやすく、住み続けられる地域づくりを支える拠点であると考えている。その中で、地域活動団体が円滑に連携できるよう調整</p>
--	---

する「ハブ機能」としての役割を指して、プラットフォームという言葉を使用している。

(委員)「誰ひとり取り残さない街づくり」という基本方針を掲げているが、現在は声を上げられない、または上げたくない人も多いと感じている。そうした人への対応について、どのように考えているか。

(団体)「声を拾いに行く」前提として、「声を届けられない地域をなくす」ことを重視している。グループ内事業では、採算性にとらわれず、支援が届きにくい地域にも事業を展開してきた。

「声を上げたくない人」への明確な対応策は現時点では示しにくいですが、少なくとも声を拾いに行ける体制を整えることで、「誰ひとり取り残さない街づくり」を進めていきたい。

(委員) 人材確保に苦慮する地域ケアプラザも多い中、幅広い人材を確保しているように見えるが、団体としての強みや取組は。

(団体) これまで児童から高齢分野まで幅広く事業を展開してきたことで、多くの応募があり、一定の採用力を有していると考えている。人材育成では「守・破・離」を行動指針とし、複数事業を活かした適材適所の配置が人材の確保・定着に結びついている。

(3) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。

事務局より前期実績報告書について説明。

坂田委員より財務分析結果報告書について説明。

2 指定管理者の候補者の選定、講評

応募団体から提出された応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補者	社会福祉法人緑峰会	1,507／2,040点	1,421／1,062点
次点候補者	エフィラグループ株式会社	1,230／1,950点	1,191／1,062点

(審査講評)

(1) 社会福祉法人緑峰会

ア 優れていたところ

	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の運営実績があり、地域との関係性や事業運営の安定性・信頼感を強く感じた。 ・地域に密着した取組が具体的に示されており、利用者目線でも安心して利用できると感じた。 ・職員の熟練度や事業水準が高く、着実な地域ケアプラザ運営が期待できる体制が整っている。 <p>イ 今後期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定性に加え、今後に向けた新たな視点や革新性のある取組の提案。 ・地域的な課題として、子育て支援や障害分野にも力を入れてほしい。 ・提案資料やプレゼンテーションについて、より分かりやすい表現・工夫。 <p>(2) エフィラグループ株式会社</p> <p>ア 優れていたところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規参入で手を挙げた姿勢や、挑戦意欲・チャレンジ精神はとてもよかった。 ・資料やプレゼンテーションの完成度が高く、準備に真摯に取り組んだ姿勢がうかがえた。 ・自主企画事業の提案など、新しい視点や刺激となる要素があった。 <p>イ 今後期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日吉地区の地域性や既存の地域組織について、より踏み込んだ理解を深めること。 ・理念やビジョンを、地域の実情に即した具体的な取組や連携方法として示していくこと。 ・地域ケアプラザ運営に求められる、地域とともに進める視点の定着。 <p>指定候補者及び次点候補者の得点は、いずれも最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人緑峰会他を指定候補者及び次点候補者として選定することを決定する。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) タイムスケジュール (2) 市税納付状況確認の照会結果 (3) 団体役員等の照会結果 (4) 審査票 <p>2 特記事項</p> <p>特になし</p>